

琢 磨 台

H30.6.18 文責：校長

1 本校生草野心平生地で校歌を歌う

本校の校歌は、詩人草野心平の作詞である。本校生に「草野心平を知っている？」と聞いてみたが、誰も知らないと言う。現在では草野心平の詩は教科書に載らなくなったが、かつては載っていて、誰もが知っている有名な詩人であった。

その草野心平は福島県いわき市の出身である。彼の生地いわき市に「草野心平記念文学館」がある。その文学館で「草野心平の校歌」展が17日まで開かれていた。

そこで、16日土曜日、音楽部と音楽選択者有志で、校歌を歌いに行ってきた。



← 展示室入り口



↑ 草野心平写真



←校歌披露の様子
後ろ姿で申し訳ないです

2 作詞料はいくらか？

校歌の作詞は昭和33年1月には完成した。そして作曲家の渡辺浦人氏に渡された。曲がつき楽譜が本校に届いたのは、昭和33年2月4日頃と思われる。

校歌受領の知らせと御礼の葉書が、2月5日付けで書かれている。その際、作詞作曲料の相談もした。作詞を依頼した時には、「5万円」という線で話したようであるが、完成した時に改めて相談をした。草野からの返事は、作詞作曲併せて「8万円」だった。その金額を草野名義の口座に振り込んだという記録が残っている。

本校校歌作成の金額は「8万円」です。現在の感覚では、少し安いのではと思うが、昭和33年の貨幣価値です。現在に直すといくらくらいになるのでしょうか？ ご両親やおじいちゃんおばあちゃんに聞いてみよう！

3 6月16日は校歌記念日

本校に届いた校歌は、音楽部によって歌う練習がなされた。

そして昭和33年6月16日、「摺沢」高校（大東高校ではない）「講堂」で（体育館ではない）お披露目の会が催された。

この日は、「校旗」完成のお披露目も兼ねていた。さらに、「音楽会」と銘打って校歌披露後、プロによる歌の披露もあった。

この場に集まったのは、本校全日制・定時制生徒、同窓会関係者、大東中・千厩中・千厩高生など、1500人だったと記録に残っている。

つまり、6月16日は本校にとって「校歌記念日」である。その日に、作詞者である草野心平の生地を訪ね、校歌を歌ってきたという訳である。

4 帰宅困難区域を見てきた



いわき市に行くには片道4時間かかった。高速道路を使った訳だが、東北道→常磐道と走った。常磐道を走ると、相馬・浪江・大熊・広野といった地名が眼に入り、福島から避難した皆さんの生まれ故郷ということで、何度も耳にした地名である。

福島県に入ると、高速道路の路肩に「放射線量」の表示板が現れる。我々は気にしなくなった放射線量は、福島県では今なお「現在の」問題であった。走ると共に放射線量の数値が高くなり、福島県に入ってすぐの時は0.1

マイクロシーベルトだったが、走ると共に数値が上がり、最も高い広野町近くでは、2.7マイクロシーベルトだった。一関市の現在の平均は0.04マイクロシーベルト以下だ。



帰宅困難区域に入ると、原発事故当時のままの家が見え、人が住まなくなった家の周囲には草木が生い茂っていた。空き地の所々には、大量の黒い塊とそれらを覆うビニールシート。運搬先のない汚染物質を置いているのだった。また、すれ違う車にトラックが多く、「除去土砂等運搬車」という表示がなされていた。

